

女子青年の人格形成に及ぼす影響について(第10報)

菅広大 岩高 ○山田昌子

目的 親子関係(育児観・児童観)に焦点を絞った上で、更に女子青年期の経験の家庭経営期への影響のあり方を明確にすることを目的とした。

方法 青年期における経験の内容を具体的にしるべきことにより、現在家庭経営期にあるものについての、家庭経営期に至るまでの親子関係にたいする考え方の変化と影響をみるため、次の調査を行う。○現在、家庭経営期にあるもの(第9報被験者を含む)に青年期における③・好ましい経験、④・好ましくない経験を回想させ、好ましくない経験では別紙の評定を行わせてみる。ここの影響により、現在どんな考えで家庭の営みを行っているかと調べる。○家庭を営んでいる現状において、親子関係の困難性、弊害と恐れられるものは何かについて、一般的なものを探る。

結果 第9報でも明らかにしたように、上記のデータから青年期におけるよい経験は、自分の子どもにも経験させたい、悪い経験はよい経験に転化させたいと努力していることが解った。しかし悪い経験については、ついつい不可避的に繰り返している場合が多く、親になって母親の気持がよく解るといふ子育てについての困難性を現状として捕えることが出来た。